第８回「平成 28 年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会　議事録

日時：令和３年（２０２１年）１１月１５日（月）１６：００～１７：１５
場所：益城町役場仮設庁舎　別館２階大会議室
出席：柿本委員長、星野委員、竹内委員、田中委員、中川委員、宮﨑委員、坂井委員、森永委員、津田委員、浜田委員、内田委員、福永委員、村上委員、三角委員、水嶋委員

１．開会

・　委員長
- 交代された委員もいるので、会の目的について説明。
- 住民が一体となって災害に強い益城町をつくり、それを将来にわたって維持していくために一人ひとりが常に災害に対する備えに取り組んでおく必要がある。全住民が平成２８年熊本地震についての経験を共有し、それに基づき、災害に対する備えに取り組むことを第一の目的として記憶の継承を進める。益城町の経験や教訓を全国に伝え、日本全体の防災力向上に貢献することも記憶の継承の目的。
- ４つの記憶の継承を行っていく。内容は、いのちの記憶、くらしの記憶、活動の記憶、大地の記憶。
- 熊本地震の経験を記録していくとともに、日本中の人の防災に役立ててもらう。
- こういった活動を通じて地域づくりにも活用できればと考えている。
- 活動の詳細は各部会からこの後報告する。忌憚のないご意見をいただければ。

・　事務局
- 議事公開について説明
- 配布資料の確認
- 新委員の紹介

２．委嘱状交付

・　事務局より委嘱状を交付

３．各専門部会における活動報告および今年度の活動計画

・　事務局
- 震災遺構の保存・活用専門部会の活動について資料３を用いて説明

・　専門部会長
- 部会には保存と活用の 2 つの役割があるが、保存は専門家の意見が必要なので説明のとおり。活用は行政だけでは如何ともしがたく、広く住民といっしょにやっていく必要がある。
- 助言活動ということで、平田・柳水郷づくり協議会が 11 月 13 日に開催した「地域が残す震災遺構シンポジウム」に参加、コロナで住民同士長い間会えなかったこともあり、50 人ほど来られていた。
- みんなの家を防災広場の向かいに移設し、消防団と平田柳水集会所として使っている。活用についてやっと協議がはじまった。
- 記憶の継承活動には終わりがない。新しくやっていくこともでてくるので、活用について話し合っていかなければならない。今後とも広くご協力をいただければ幸いである。

・　事務局
　➢　防災教育専門部会の活動について資料４を用いて説明
・　専門部会長
　➢　活動について、昨年度の終わりに内閣府の地区防災計画の策定を広安小自主防災クラブで行った。
　➢　布田川断層帯の整備基本計画策定について震災遺構の保存・活用専門部会から報告があったが、防災教育の方針を引用する形で冊子等整備されていないことが課題。
　➢　学校や自主防災組織の活動は具体的に進められているが、布田川断層等が整備され来訪者が増えていく中で、益城町の防災教育としてどう関わるか、小中学校がどう活用していくか、防災教育を組み立てていく議論が不十分、これから進めていきたい。

・　事務局
　➢　震災記念公園専門部会の活動について資料５－１を用いて説明
　➢　（仮称）益城町復興まちづくり支援施設展示業務について資料５－２を用いて説明
　➢　益城町震災記念公園中心拠点基本計画（案）について資料５－３を用いて説明
・　専門部会長
　➢　記憶の継承はどちらかというと形のない活動がメインだが記念公園は数少ない形のある活動。今年度復興まちづくり施設ができ来年度役場新庁舎ができるという中で、記憶の継承を活性化するための場づくりとして、しっかりと議論できれば。
　➢　展示の計画等いろいろ説明したが、最後に説明した中心拠点について、役場の横に 1000 ㎡程度の小さな公園ができる。単純に公園とするのではなく、まちづくり施設、役場の展示と連携し活動の一つの拠点となる。
　➢　ただし、立派なモニュメントや彫刻を設置して地震の日だけ集まって追悼するということではなく、普段から遊びに行く、そういう場所があってそのそばにいのちの記憶、地震や災害に対する思いに寄り添う、というひとつの形が中心拠点となる。
　➢　プロポーザルで形を決めるという手続きをとるため、どんな形になるかはこれから。いい形にするため基本計画は大事であり、ご意見をいただきたい。

４．意見交換（〇：委員　◆：事務局）

●　〇各部会から発表があった。それぞれの部会で順調に事業を進められていることに感謝申し上げたい。地震から 6 年経つと進めづらいこともあるかもしれないが、それでも着実に進められていることがすごいと思った。
防災教育について、目的が「熊本地震の継承」ということなので、地震に対する防災教育が中心になるかと思う。ただ、住民の方は風水害、特に水害が喫緊に起きるという地域もあるので、地震よりも風水害をやってくれ、と要望されるところもある。そこをどういう風にやっていくか、というところが心配。
また、震災記念公園について、役場周辺にいろいろな公園を作ってやっていただくのは素晴らしいと思うが、何せそんなに広くない。駐車場をいかに確保しておくかがこれからの大きな問題点になるのではないかと思う。理想的な公園だけを追求するのではなく、管理的な観点からも含めて検討していかないと、せっかくの目的を達成できないのではないか、と心配になった。
　➢　〇立地適正化計画を立てられているが、その中では風水害への対応というのも入っているので、防災教育も

包括的に考えた方が良いと思う。

- ◆「記憶の継承」ということで最初に整理されたものだが、危機管理課では風水害ももちろん対応している。ハザードマップについてはむしろ水害ハザードマップの説明として行っている。こちらの専門部会でもそれらを含めるという考え方もあるが、まずは地震の内容を中心に整理しているというところ。
- ○風水害を見ないというところではないが、専門部会としては十分に議論していないところ。ただ、発災後 72 時間だけでなく、その後の対応についても検討していくとなると、それは災害に関係なくというところになる。なので、他の災害にもきいてくることになるのではないかと思う。また、全国で活動されている方もいらっしゃるので、たとえば昨年の７月の県南豪雨災害の経験を益城町に持ち帰っていただいて継承していくというのもあると思う。
- ◆駐車場の問題は避けて通れないと思っている。新庁舎も進んでいき、にぎわいにも関連する駐車場なので、そこまで含めて検討していきたいと思う。
- ○駐車場の問題は、中心拠点だけでなく、木山交差点を中心とした都市拠点をどう作っていくかということと深く関連すると思う。専門の駐車場ではなく、例えば役場の駐車場を土日は使えるようにするとか、ウォーカブルというところも出しているので、目的地から少し離れていても歩いて行くのが楽しい、というような街全体の過ごしやすさを、他の事業とも連携しながら作っていかないといけないと思っている。
- ○交通広場等も整備されていく。地域公共交通会議の中でも公共交通機関の充実というところが謳われているので、それとも連携した動きをとっていくということになると思う。

● ○どの部会ということではないが、熊本地震全体でこういう拠点施設整備をしていくときに、県全体で見ると南阿蘇村に震災ミュージアムが作られて、回廊型でミュージアムを形成していくとなっている。益城の拠点はある意味サブの拠点になってくるということだと思う。そういった時に、ここの機能というのがコンテンツも含めてこういう形でいいのか、というところ。差別化ができるか、益城町としての特徴があるか、他の所と同じようにならないか、というところの検討は必要ではないか、と思う。県と他市町村との連携というところをどう考えるか。

- ○県が回廊型ミュージアムといっているのであれば、もう少しリーダーシップを取って欲しい、というところはある。ボトムアップではしづらい。復興まちづくり支援施設及び役場内公園については、益城町の人を対象にしているので、県全体の回廊との関係はあまり議論になっていないと思うが、役場内の展示については、布田川断層帯全体で考えていく必要があると思う。
- ○復興まちづくり支援施設については、地域活動が展示の中心になるとか、常に展示が変わっているというところは素晴らしい。まちづくりに生きる記憶の継承の方法と思う。益城町で大事にしたいのは、拠点を介して行政と住民がつながるということや、校区同士がつながるということ。つなぐ関係性が県と違うのではないかと思う。県は自治体と自治体，拠点と拠点など広域の関係性づくり，益城町は町内の拠点と拠点，集落と集落，人と人，とをつなぐのが大事。日頃から多くの人が，日常としてそこに集っている、というのが大事と思っている。

● ○震災記念公園が器を用意していって、保存部会がコンテンツを用意し、それを活用するのが防災教育部会と思う。そのあたりの連携はどのようになっているか。

- ○正直平田も大変な想いをされている。なかなかコミュニケーションがとれていなかったところがあると思う。これからできる限りでコミュニケーションしていこうと思う。
- ○部会の連携でいうと、正直、オフィシャルな形で一同に会して議論するというような仕組みはやっていない。その点は課題。一方で、部会長同士や支援施設展示内容はミナテラスからお借りするなど、実務レベルの横連携はとれているというところ。もう少し横連携を強くするような動きはしていかねばと思っている。
- ○部会長会議が開催されていないのが実際のところ。防災教育で議論されていることが反映されているか、と

確認する機会が持てていないというのが実際のところ。これから進めていきたい。

- ➢ 〇連携していく、というところが重要になってくると思うので、その点、工夫しながら進めていただければ幸い。

- ● 〇この委員会の開催時期を検討いただきたい。年度初めか年度終わりかのどちらかに寄せながら実施していただけるとありがたい。その上で必要であれば臨時で実施するなどのやり方があっても良いと思う。
  - ➢ 〇事務局としてはこの時期で・・・というところもあると思う。予算に絡む話があるのであればこの時期にやっておかねばと思う。
  - ➢ ◆今回についてはもう少し早く・・・と思っていたところもあったが、コロナの関係で少し遅れたもの。防災教育専門部会において、予算については今回は大丈夫だった。時期については検討したいと思う。
  - ➢ 〇予算が絡むにしてももう少し早めにしていただかないと「もう反映できない」ということになると思うので、その点は是非お願いしたい。

５．事務連絡

・ 事務局

- ➢ 次回の委員会の開催時期については、意見、各部会の進捗状況を踏まえ検討。

６．閉会

以上